

<クラス会・同窓会だより>

機械工学科38年入学 同窓会報告

広岡 諄二（機械42年卒）

はじめに我々の同窓会の名称についてですが、卒業年ではなく入学年にしています。諸般の事情で同じ年に卒業できなかった仲間のことを配慮し、入学時から一緒に過ごしてきた思い出を大事にしていこうと皆で決めました。今まで行ってきた同窓会をふり返ってみると、卒業後20年目には湯田温泉で同窓会とゴルフ（20名）、その後、淡路島旅行、今から7年前には下呂温泉・新穂高ロープウェイ旅行（2泊3日、20名）、5年前には私の故郷の出雲大社・大山・鳥取旅行（1泊2日、16名）を行っていました。50数年で4回程度の同窓会しかしていないようです。

今年は後期高齢者となる年代になり、年賀状やメールでそろそろ集まらないかとの話が出てきたことから、関東地区は竹本さん、関西地区は才田さんに手伝ってもらい、平成31年4月16日に、皆が集まりやすい大阪駅近くの中華料理店ロドスで12名参加のもと日帰り同窓会を開催しました。開会挨拶と乾杯の後は、久しぶりの再会とあって会場の雰囲気も

盛り上がり、宴たけなわとなったところで各自の近況報告を行いました。今回は皆さんからの要望で、都山流尺八大師範（将棋ではプロ7段?）の肩書をもつ山根（凌山）博さんがトップバッターになり、素晴らしい演奏や演歌を披露していただきました。また尺八の吹き方を教わり、皆で尺八の体験をし、大いに盛り上がりました。そのあとは皆さん個々の近況報告に戻り、病気の話や健康の話、娘の演奏会発表の話、地域の合唱団に入会して演奏会をする話、海外・国内旅行に出かけた話、ゴルフ・テニス・ウォーキングに励んでいる話、趣味の銅アート組木細工、油彩画でユニセフへの協力支援を行っている話、大学の公開講座（認知症にならないための武器）を受ける話等々多種多様な話題が出て、本当に笑いあふれる同窓会になりました。

最後に今後の同窓会について幹事の才田さんより話がありました。今後は全員に案内をするという同窓会ではなく、各地区で行う懇親会や旅行等がある際に、幹事の才田さん、竹本さん、広岡へ連絡してもらうことで皆さんへ案内をし、各自の判断で参加、不参加の連絡をすることになりました。



会場前にて



宴会風景

工業化学科51年入学、55年卒業 39年ぶりの初めての同窓会報告

大濱 貴彦 (工化55年卒)

平成31年3月16日(土)、北九州市小倉北区の「酒房武蔵」にて卒業後初めての同窓会を開催しました。集まったのは60歳を超えたメンバー9人。みんなドキドキで集合です。一人一人が会場席へ現れると「おーっ」と声をあげて歓待。その風貌より浦島太郎への変化に一喜一憂。お酒が入る前からテンションは最高潮でした。実は前年の平成30年10月6日に山口市で同窓会を開催する予定でしたが、憎い憎い台風25号が山口県へ最接近ということで急きょ中止となった経緯があり、待ちに待ったリベンジの同窓会でした。遠くは千葉・埼玉・東京より駆けつけてくれました。

乾杯の後、それぞれの近況報告だけで約4

時間、積もる話がつきません。再雇用の者がほとんどですが、これまでの経験を活かして若い人たちのリーダーになって活躍している人、いまだに子育てしているので働かざるをえない人、会社がなくなってしまったが乗り越えた人、研究者から完全リタイアして野菜作りに専念している人、園芸士の資格をとりさらに樹木医まで目指している人、シルバーにて再びサッカーを始め、肉体強化のため毎日筋トレをしている人、等々それぞれの生き方に大いに勇気づけられ、自分もまだまだいろんなことに挑戦するぞという気持ちになりました。当時の写真を肴に酒もすすみ、楽しい時間はあっという間に過ぎました。みなさん飲みすぎて二次会までたどりつけず、ラーメンでメめることになりました。

次回は65歳で集う予定です。今回都合により欠席された方を含め大勢の参加をめざし、更に盛大な会にしたいと思います。



土木工学科43年卒業 卒業50周年記念同窓会報告

星隈 保夫

平成30年11月7日～8日、卒業50周年を記念して関東地区都心部において同期会を開催した。関東地区での開催は初めてで、関東地区在住者が幹事となり1年以上前から、山口・宇部在住の常任幹事と連絡をとりながら準備を進めてきた。当日は、さいわいお天気にも恵まれ、懇親会、観光ツアーとも無事実施することができ、幹事として安堵したところである。

同期の卒業生26名のうち、残念ながら既に2名が亡くなったが、18名が元気に出席した。会場は、東京浅草の「浅草ビューホテル」25階にあるスカイダイニング「舞の間」。ライトアップされたスカイツリーを正面に見ることができ、ちょっと贅沢な気分を味わいながらの懇親会であった。お互いに近況報告をし、また50年前を思い出しながら、大いに楽しむことができた。二次会は狭いながら幹事の部屋に集まり、酒を飲みながら学生時代の懐かしい思い出話に大いに盛り上がった。

翌日は、「東京スカイツリー展望ツアー」および「東京クルーズの隅田川川下り」の二つのコースを企画し、それぞれ9名と7名が観光を楽しんだ。スカイツリーは、当日行っても長時間待たされることが多いが、当ホテルの宿泊者はフロントで当日指定券を購入することができ、またホテルの前からシャトルバスが運行されているので大変便利である。おかげでスムーズに入場でき、ゆっくりと展望することができた。隅

田川川下りのグループは、浅草寺を中心に浅草界隈をゆっくりと散策しながら、吾妻橋から水上バスに乗船。蔵前橋、両国橋、勝鬨橋など隅田川に架かる歴史的な13橋をくぐりながら浜離宮までのクルーズを楽しんだ。

今回は、都心の都市型ともいえる同窓会であったが、兄弟や子ども、孫が関東地区に住んでいるという人もいて、多くの方が集まり、それなりに有意義な同窓会になったのではないかと勝手ながら思っている。

これからも2年ごとに開催することを決め、次回は山口・宇部の常任幹事に世話役をお願いし、参加者全員再会を約束して同窓会を終了した。



土木工学科43年入学・47年卒業 同窓会報告

幹事 山本 雅史 (土木47年卒)

卒業後50年近く経つ私たちが、若い人たちと交わる会合に出ると、「若い人からパワーをもらった」というようなことをよく言います(こちら側からも、何かお返しができているとよいのですが…)。一方で、同年代が集まることには、「十人十色の人生模様にお互いがおおいに触発される」という意義があるように思います。もちろん、理屈抜きに昔話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごし、「また明日から頑張るぞ」という気持ちを持ち帰る、ということが一番であることは間違いありません。

クラス会の開催が、前号「常盤」82号の原稿締め切り直後だったために、82号には間に合わず、いささか時が経ってしまいましたが、昨年11月19日、20日に、通算で7回目の同窓会を開催しましたのでその報告をさせていただきます。

継続的な開催は、地元在住の中村(雅)、石田、長掛、白石の4君の尽力によるところ大です。前回までは5年ごとの開催でしたが、古希を迎える歳になったことから、3年ごとに変更しました。場所も、これまでは宇部か山口(湯田温泉)でしたが、初めて県外に出ることにし、紅葉を期待して、安芸の宮島を選びました。

出席者は14名。人数的にはややもの足りないものの、広島、山口のほか、横須賀、桑名、奈良、鳥取、宗像

(福岡県)からの出席もあり、また中には卒業以来46年ぶりという参加者もいて、一次会、二次会、さらには幹事の部屋で三次会と、12時近くまで盛り上がりました。一人3分間と決めた近況報告も、時間内に収まらないことが多く、みんな自信にあふれた人生を送っているように見えたのが印象的でした。

翌日は宮島観光。夏が異常に暑かった影響か、紅葉は部分的でしたが、歴史に詳しいひとりの案内で、毛利元就が陶晴賢を破った厳島合戦の砦跡など、一般の観光客はあまり歩かないところを巡りました。さらに、地元出身者より、名所になっているもみじ谷の整備に、土石流災害からの復旧のために行われた砂防事業が寄与しているという説明を受けて、「土木工学」の勉強もちょっぴりし、落伍者もなく、2時間余りを歩き通しました。そして、締めくくりは宮島名物あなご飯。それぞれが健啖ぶりを披露し、3年後にまた元気に再会することを約束して散会しました。

この報告を読まれ、「次回はぜひ自分も」と思っただけいたらうれしいです。



前列左から長掛、中村(雅)、河野(孝)、仲上、中村(徹)、二階堂、白石。後列左から石田、播磨、山本、江口、前田、斉藤、永瀬

電気工学科40年卒業 第9回同窓会 (2018年 in 山口) 報告

信田 宏

私たちは東京五輪が開催され、東海道新幹線が開通した翌年の1965年に社会に出ました。30数%の賃上げを実現させ「油断」によって終焉した高度成長時代に踏出した頃でした。あれから37年後、還暦を迎えた2002年に京都で最初の全体同窓会を開催しました。

第9回となる今回の同窓会は、昨年11月16、17日に山口地区で開催しました。場所が遠いとの意見もありましたが千葉、東京からも含め、11名（卒業時32名、うち7人が逝去）の参加がありました。

1日目は山口市阿知須の「アジススパホテル」で温泉三昧の同窓懇親会です。会場へのアクセスに少し難があり、最寄りの駅から徒歩を企てた剛の者もいましたが、予定通り飲み放題の懇親会が始まりました。今や皆が、人生百年時代の「玄冬」期にあります。それぞれが自分の生涯現役をゆったりとあるいは熱く語りました。ただ、飲み放題は必要なかったなと思える成熟(?)した有様でした。

二次会はお決まりのカラオケ大会です。このために同窓会に参加する猛者がいますから幹事必須の手配事項です。ラウンジに相客がなく、貸し切り状態で昭和から平成までの歌が続きました。

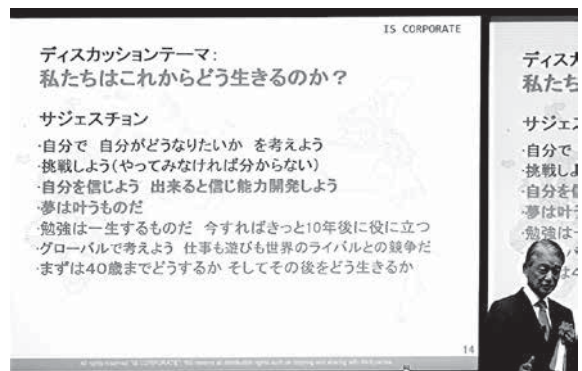
2日目は工学部ホームカミングデーに参加

してのミニ同窓会です。ホテルの好意により、工学部までマイクロバスで直行です。大学の



配慮で講義室を同窓会用の部屋として準備いただいたこともありがたかったです。正門から会場への途次、旧電気工学棟前で写真を撮りました。

ホームカミングデーのOB講演は「私たち技術者のキャリア設計」(講師：石田繁夫氏 機械45卒)でした。私たちはこれからどう生きるか。多くの学生さんに聴いてもらいたい



内容でした。日産で活躍されていた講師の石田氏に、同窓のT君がゴーン氏の人柄を尋ねたところ、ゴーンさんは一般社員との対話術に長け、製造現場の人気者であった、とのことでした。今にして思えば、絶妙の講演タイミングでした。

総合研究棟8階展望ラウンジから見る常盤公園、宇部市街は3年間の学生生活を思い出させ感慨深いものがありました。

今回は奈良でという話が決まるや、会計担当のS君はその場で決算報告を行い、残金を次の幹事役のI君に託しました。次回世話役の背中を押す見事な処理です。健康に留意して「国のまほろば大和」での再会を約し合いました。

